

# 先週への回答

# 無念 無想



「偉い坊さんはすぐに入れるんだよ  
何に？」  
「無念夢想に」  
「誰ですか？ それは」  
「人の名前ではない。無我になること  
だ」  
「ロツテとか森永とかの？」  
「ガムではない、無我だ。念も想も無く  
すことだ」  
「念といえますと？」  
「心の迷いをなくすのが無念」  
「夢想は？」  
「何も考えないことだ」  
「すると」  
「心に浮かんでくる思いを断ち切り無

我の境地に入り、何も思わない状態にな  
ることだ」  
「いつさい何も考えないなら、ぼくはい  
つもそうです」  
「それは思考力のないバカ。お父さんが  
言っているのは、いろいろなことを考え  
る頭脳を持ちながら、一切何も考えない  
状態になること。先天的に何も考えられ  
ない、テストが0点のおまえは単なるバ  
カ」  
「ありがとうございます」  
「ほめてない。お父さんが何で魚釣りに  
行くかわかるか」  
「魚がすきだからか、今晩は魚定食が食  
べたいから」  
「ちがう。糸をたらして川面を見ている

と何もかも忘れられて、無念無想の境地  
になれるからだ。納得したか」  
「しません」

「いいか。何事をするにも雑念が混じつ  
ては、いい結果にならないときがある。  
無念無想になってはじめていい仕事か  
できるんだ」  
「たとえば？」

「たとえば武道の達人やスポーツ選手  
がそれだ。巖流島の決闘に臨んだ宮本武  
蔵しかり、大記録を達成した巨人軍の王  
選手も心を無にしたから、普段発揮する  
以上の集中力が出せたのだ。おまえも無  
念夢想になってみる」  
しばらくぼくは無念無想になってみ

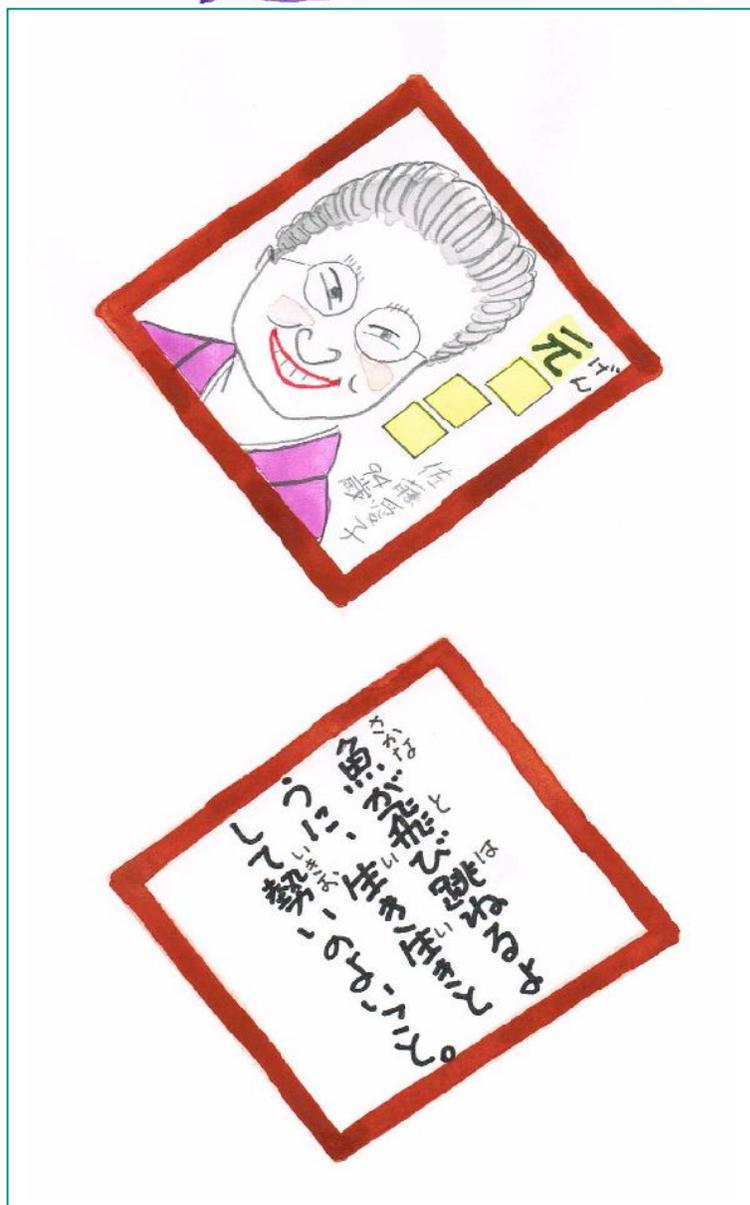
た。  
「なりました」

父はぼくの頭を掴んで振ってみた。カ  
ラン、カランと音がした。

「たしかに空っぽだ」とさびしそうに呟  
いた。



# 今週の問題



□の中に漢字を埋めて  
四字熟語を完成させてください。